開導聖人を支えたご信者物語 第2回

ご開講当初（佛立講ができた頃）の開導聖人のご活躍は、熱心なご信者方の協力によって支えられてきたんだ。前回の奥野利兵衛さんは、お教化、ご有志、勤労奉仕のご奉公に励まれたご信者だったね。今回は、世話（人の面倒をみる）好きで、多くの人々にご信心を弘めた中井徳兵衛さんのお話をするね。

中井徳兵衛 1

中井徳兵衛さんは天保元年（一八三〇）に、丹波柏原の国（兵庫県丹波市柏原町）で生まれたんだ。徳兵衛さんが本門佛立講（本門佛立宗）のご信者となったのは、安政四年（一八五七）の佛立講ができたばかりの頃で、教化親（佛立講の御題目のご信心を伝えてくれた人）は、なんと開導聖人なんだよ。

開導聖人は佛立講ができた頃、よく大仏殿（京都市東山区の方広寺。通称大仏殿）の南門の前にあった茶店（休憩したりお茶やお菓子を出してくれる飲食店）に食事をしに立ち寄られていたんだ。田舎（生まれ故郷・ふるさと）から出て来た徳兵衛さんはその茶店で働いていたんだよ。

何度もお会いするうちに徳兵衛さんは、開導聖人の立派なお人柄や御題目のご信心の有難さにとても感動し、ついに佛立講のご信者になることを決心されたんだね。

明治元年（一八六八）中井徳兵衛さんは開導聖人にお願いして南組を創立。自ら講元となる。写真は南組創立の時に開導聖人がおしたため下さった御本尊（本成寺蔵）

安政４年、気楽な茶人風の開導聖人から教化を受ける中井徳兵衛さん

ある事件が起こる…

三十歳で結婚された徳兵衛さんは、とても世話好きな人なんだ。特にご信心のことになると、懇切丁寧（真心がこもっていて、細かい所まで気配りができる）に、男女の区別なく一生懸命にお世話をされたんだよ。

同じ組内に鈴木サトさんという女性のご信者がいたんだ。徳兵衛さんはこの女性に恋愛感情（相手を恋しいと思う気持）はなく、いつものようにご信者として親切に世話をしてあげていたんだ。でも、周りの人々は「徳兵衛さんは奥さんがいるのに、あの女性と仲が良い」と陰口（その人のいない所で悪口をいう）をいうようになったんだ。

この話（陰口）を聞かれた開導聖人も心配されて、徳兵衛さんに「気をつけなさい！」と注意をされたんだ。自分のご奉公が周りから勘違い（間違って思い込む）され、また開導聖人のお心までも悩ませてしまったことを徳兵衛さんは深く反省されたんだ。そして二度とこのような陰口をいわれないようにと、徳兵衛さんは自分のオチンチンを切ってしまったんだ。

驚いた人々に徳兵衛さんは「気がおかしくなったのではない。勘違いされて大切なご奉公ができなくなるのがとても悔しいのだ」と、そんなことをしてしまった理由をきちんと話したんだ。

この話が多くの人々の間に広まると、陰口をいった人たちは本当に申し訳ないことをしたと、涙を流してお懺悔（改め・おわびする）をしたんだ。以後、陰口をいう人はいなくなり徳兵衛さんは、相手が誰であろうと遠慮なくお世話させてもられると喜び、御題目を弘めるご奉公にますます励まれるんだ。

つづく

諸国佛立講導師場處定の図　扇全2巻457頁　★1は「南組」で「講元中徳」とあるのは講元中井徳兵衛さんのこと

徳兵衛さんの生まれた丹波・柏原藩は２万石の小さな藩だったが、今でも城下町の街並みが残っている。写真は現在の柏原駅前通り